サツマイモ基腐病への蒸熱処理の有効性について

4/13（火）の日本農業新聞にサツマイモ基腐病への蒸熱処理が有効という記事が掲載されました。

蒸熱処理はマンゴーなど海外から日本への輸入果実の植物検疫で用いられる消毒技術で、弊社では 1980 年代に蒸熱処理装置（VHT）を開発し、製造販売を行ってきております。

サツマイモの蒸熱処理については弊社でも試験研究を行ってきており、今後も引き続き関係機関と協力しながら、研究を進めて参ります。

蒸熱処理が有効

サツマイモ基腐病

農水省

芋の消毒で確認

農水省の横浜植物防疫所は、サツマイモ基腐病を蒸熱処理で消毒できる条件を明らかにした。発病したサツマイモを47、48度、湿度95%以上で3時間ほど処理したところ、菌が発生せず、サツマイモも発芽した。同病は九州を中心に拡大し、各地で問題となっている。同病に感染した種芋の消毒方法として活用できると期待する。

同防疫所は、サツマイモ「べにはるか」「ベニアズマ」「シルクスイート」の3品種を使って消毒試験を実施。芋に針で穴を開けて菌の入った液を接種した。発病した芋を47、48度、湿度95%以上で3時間10分蒸熱処理を実施し、消毒効果を確認した。

同防疫所は「感染した芋を圃場（ほじょう）に持ち込まないのが重要な対策の一つ」と指摘。収穫時の芋に症状がなくても、サツマイモ基腐病菌に感染した芋が貯蔵中に腐敗し、種芋として圃場に持ち込まれるケースも想定され、対策が求められていた。

サツマイモ基腐病に感染したサツマイモは、茎の地際が褐色や黒色に腐り、葉には黄化や落葉の症状が現れる。2018年に沖縄県で初確認され、鹿児島、宮崎、熊本、福岡、長崎、高知、静岡、岐阜の8県で確認。農研機構などが防除マニュアルを作成し、対策を呼び掛けている。

サツマイモの蒸熱処理に関するお問い合わせは三州産業(株) 営業部 海外プロジェクトまでお問い合わせください。

＊電話:(099-269-1821)

＊Email: info@sanshu.co.jp